

第 2 回 湯沢市ゼロカーボン推進計画策定市民会議

議 事 録

開催日時	令和 5 年 9 月 2 6 日（月） 14 : 00～
開催場所	湯沢市役所本庁舎 4 階会議室 43
出席者	<p>委 員：古林敬頭（秋田大学 大学院理工学研究科 准教授・市民会議会長） 佐藤充（秋田県地球温暖化防止活動センター センター長・市民会議副会長） 佐々木明子（湯沢商工会議所 議員） 佐藤恭子（ゆざわ小町商工会 商業部会 副部長） 高嶋江美子（雄勝野づくり推進協議会 副会長） 菅善徳（湯沢市まちづくりコーディネーター） 佐藤達也（湯沢青年会議所 事務局次長）</p> <p>オブザーバー：桜庭佑己（秋田県 生活環境部 温暖化対策課）</p> <p>事務局：湯沢市 市民生活部長 高橋、環境共生課長 阿部 環境共生課環境対策班 樋渡、阿部、川村 ランドブレイン（株）鈴木（会場参加）、 宮本（Web 参加）</p>
会議内容	<p>1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 説明 秋田県の取組み（ストップ・ザ・温暖化あきた）について 4. 議事 （1）湯沢市ゼロカーボン推進計画（骨子案）について （2）策定スケジュールについて 8. 意見交換 話題提供 → フリートーク 9. その他</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・資料 1（議事（1）に関する資料） ・「ストップ・ザ・温暖化あきた」に関するパンフレット

議事内容	
3. 説明	オブザーバー桜庭氏より、パンフレットを用いて説明

4. 議事	(1)湯沢市ゼロカーボン推進計画(骨子案)について 事務局より資料1を用いて説明
会長	<p>P. 48 と P. 49 の現在の再生可能エネルギーの導入状況とポテンシャルについて、P49 の表における現状値について、MWh で間違いはないか。</p> <p>P. 49 の太陽光と中小水力の現状値について、P. 48 の導入状況一致しているため、再度検討を行ったほうが良い。また、現状値は何年の値か。</p>
事務局 副会長	<p>数値について精査する。また、現状値については、令和 3 年度の数字となっている。</p> <p>P. 49 の木質バイオマスの導入ポテンシャルについて、事業性を考慮したポテンシヤ</p>

ルは非公表となっているが、そのような状況下で実現性を見通していくことができるのか。

事務局 森林の環境保全については、非常に重要であるが、本市では、いつ具体的に何をするかについては明確にお伝え出来ない、森林に材をそのまま放置している状況があるため、次回の検討会の際にお出しする施策で、議論いただきたい。

委員 木質バイオマス発電とは何か。

会長 木を燃料として、燃やすということ。木を燃やす薪ストーブが具体イメージとして挙げられる。

事務局 2つ考え方があり、現在余っている木材を有効利用することと森林に使い道がないため伐採していない木があり、適正に活用することがある。

委員 木質バイオマス発電を使うことで、CO2 排出量が増えることはないのか。

委員 木も年を取ってくると、CO2 を吸収できなくなる。ある程度、老いた木を切って使うことが重要。また、電気を使って温めるより燃やすことの方が温める効率が良い。

会長 補足だが、CO2 は木を燃やした際に排出されるが、森林全体の量が減らなければ問題なく、森林の成長量以上に伐採しなければ、森林全体の量は変化がないということになる。

委員 現在、森林を管理しているのは誰か。

会長 所有者はいるが、管理できていないと思われる。所有者自身もどこが所有している山林なのか分からないこともある。

事務局 森林環境譲与税という税金があり、所有者から徴収し、行政機関に配布される。個人では管理できない部分を行政が管理するという仕組みになっているが、森林組合等も含めて、行政機関も主体的に関与していくという仕組みである。

委員 例えば、空いている田んぼを小作人契約するイメージであっているか。

事務局 そのような考え方で問題ない。経営管理権を移譲して行う仕組み。

委員 雄勝地域は、森林伐採をすごく行っているイメージがある。木を出すにもお金がかかるため、放置しておく人が多いように思う。森林伐採を行っても、次に管理する人がいないため、伐採した状態のままということが多くなってくる懸念がある。

事務局 伐採することは良いが、新しく植えないといけない。湯沢市単独で、再生林に対して独自の補助金を出しているが、重要な課題だと考えている。

委員 都会に子どもが出て行っているため、家族が山を持っていても範囲を知らない人がほとんどではないか。木をたくさん植えても、管理の問題もあるため、植えるだけ良いということではないと思う。

市民アンケート結果についても、市民がこれからどのような事をやっていかなければいけないのかを示している重要な結果だと思う。

副会長 P.29 の年代別の結果について、10 歳代というのはどの学年が対象なのか。10 歳代でも高校生でも環境について学習しているため、10 歳代と 20 歳代の差が大きいことが気になる。特に、10 歳代など若い世代への教育について、何をしていくのかということを示しているポイントかもしれない。

事務局 市民アンケートについては、15 歳以上が対象だが、小学校・中学校等のより若い世代の意識向上も重要であると考えている。

(2) 策定スケジュールについて

事務局より資料1を用いて説明

質疑応答なし。

5. 意見交換	古林会長より話題提供 「エネルギー消費と省エネの推進について」
委員	知人が、今年7月の秋田市の豪雨で、床下の暖房設備が使えなくなってしまった。古い機器であるため、部品もなく取り換えもできない。便利な設備であるが、災害時はそのようなリスクもあるのではないか。
会長	豪雨の際は、玄関のドアの縁から少し浸水していたが、高気密住宅であるため、その程度で済んだかもしれない。災害時について、高気密住宅は他の家よりは強くなる側面もある。
委員	近所には、古くて大きい家が多い。昔からの大きい家だと、隙間風や断熱も良くないため、ストーブを多く使用している話を聞いたことがある。
会長	いきなり家自体を改修することは現実的ではないため、部屋単位から始めることが重要で、第1歩の取組みになる。
委員	話題提供の中で、「省エネは我慢することではない」という言葉が響いている。どうすれば、我慢せずに省エネができるのかという適正な手段が分かれば、実行できると思う。我慢しない省エネの方法の周知や我慢しなくても良い意識付けも重要だと思う。市域の7割が山林であるが、木質バイオマスのポテンシャルがないのか。
事務局	導入ポテンシャルについては公表されていない。薪ストーブやペレットストーブを所有している人は少なからずいるため、燃やす材を湯沢市で供給するなどが重要。また、ペレットストーブで使用するペレットについて、湯沢市の木材を使用しているという製品は存在していないため、湯沢市で作って売ってという仕組みができれば良い。
委員	ペレットストーブと薪ストーブのどちらが売れているのか。
委員	ペレットストーブより薪ストーブが圧倒的に多い。趣味性が強いため、薪ストーブ自体が好きで購入している方が多いことが要因だと思う。また、遠赤外線であることから、下の階で温めると、上の階も含めて全部屋を温めることができる。東日本大震災の際は、薪ストーブで助かったというエピソードを聞いたこともある。
委員	一冬を過ごすためには、どの程度の薪がいるのか。
委員	常に家にいる場合だと、3 m ³ 程度の量が必要だと思う。
委員	高齢化により、薪ストーブの煙突掃除ができなくなり、辞めたという話も聞く。薪ストーブは、掃除が必要という懸念もある。
委員	二重煙突なら、2～3年に1回程度。現在の高性能煙突は2～3年に1回のメンテナンスで十分である。
事務局	薪ストーブの近年の需要や販売動向はどうか。
委員	近年は、若い世代が増えた印象がある。
事務局	コロナ禍におけるキャンプブーム等の影響もあるのではないか。
会長	自宅を建てる際に、薪ストーブを検討したが、断念した理由は、夏場はエアコンを使用し、冬場も使用できるため、薪ストーブを導入するとオーバースペックになると考えた。
委員	元々の家や古い自宅に薪ストーブは、導入することはできるのか。

委員	古い家にも入れることができる。むしろ、高気密住宅に入れると、暑すぎる場合があるため、古い家の方が向いているかもしれない。
オブザーバー	<p>県の取組みとして、省エネ家電（エアコンと冷蔵庫）について、補助金を出している。エネルギー効率的には冷蔵庫が大きいと良い。エアコンは、省エネ性能に関する基準である星の数が多いものを選んでほしいが、星が多いものは金額的に高い。年齢層が高い方は価格で動くが、若い世代はカッコよさやおしゃれで決める傾向がある。</p> <p>大学生や高校生など、若い世代への施策は良いと思う。</p>
事務局	<p>先週、高校生とワークショップを行った。高校生が学習する機会も多く、その高校生が小学校に行き、ワークショップの進行役をやるなど、勉強した内容を教える側になる取り組みを行っている。</p> <p>例えば、市民の意識啓発について、CO2の排出量を体感できる・見えるようにできるようにするアイデアがあった。</p>
	以上